

夢のつばさ

令和2年度
学校運営協議会
第2回「函南小学校支援会議」
だより

文責 渡邊

第2回「函南小学校支援会議」が、10月16日に函南小学校図書室で開催されました。始めに、函南小学校高橋教諭から、学校評価の分析と考察について説明しました。

◎新しい学校生活について

コロナウイルス感染症予防対策 「学校における新しい生活様式」導入

- ◆検温、健康観察、マスク着用、手洗い
- ◆密集・密接・密閉を防ぐ
- ◆学習形態・学習内容の制限
- ◆日課の変更、行事の見直し
- ◆異学年交流、地域交流のとりやめ



※学校は子供、教師、家庭が協力し、衛生管理と安全管理に取り組んでいます。学校における新しい生活様式はこれからも継続していきます。

函南小 学習の充実に向けて

- ▶夏季・冬季休暇の短縮
- ▶朝学習（15分間授業）
年間120回（授業40時間分）
1学期中 69回（23時間分）実施済み
- ▶学校行事等を精選、各教科の授業の充実をめざす

1学期末までに、
国・算ともに1学期の内容をほぼ達成

- ◆9月より県から
学び方支援サポーター
スクールサポートスタッフ 増員

- ◆教科横断的な学習を進め、
効果的な学習の工夫

- ◆情報機器の活用
視覚的に分かりやすい授業を継続

※学力の定着について、学習時間の確保や支援員の増員、視聴覚機器の有効な活用等により推進しています。

保護者・地域とのかかわり

- 今年度は・・・学校行事の精選、見直し、中止・・・
- ▶運動会中止 → 学年別 リレー会
 - ▶授業参観会 → 授業公開週間（参観者分散）
 - ▶ドリーム博 → 年度末に「総合的な学習 発表」（学年別）
 - ▶修学旅行、社会科見学（静岡方面）中止

- ◆図書ボランティア、読み聞かせボランティアがスタート
- ◆5年生 「防災キャンプ」
- ◆各教科の指導計画見直し

保護者アンケートから 見えてくる課題

- 「家で、本をよく読んでいる」保護者 61.3%
毎週木曜日の家庭読書を奨励していく
メディアとどうつき合っていくのか考える機会を設ける
「おすすめの本」読破をめざして
- 「身の回りの整理整頓ができていない」保護者 57.1%
物の置き場所、収納場所を明確にする
片付け、確認の時間を設定する
「片付いていると楽、気持ちいい」を習慣化

※学校行事を見直しました。その中で、6年生の修学旅行は、先週「中止」の決定をしましたが、子供と教師がアイディアを出し合う中で、新しいものを創造していく予定です。5年生の「防災キャンプ」は、PTA会長の岩田さんや副会長の久保田さんが所属する地元の消防団の皆様の応援や函南町役場の職員、静岡県東部地域課の職員、日本赤十字社の職員等の指導をいただきながら防災講話や放水体験、避難所設営の体験活動を行う予定です。今年度初めて実施する活動ですが、コミュニティスクールの視点からも期待されます。また、今回の「アンケート結果」から見えてくる課題として、「読書の課題」や「身の回りの整理整頓の課題」が報告されました。

次に、「学校支援会議」で協議したことについてお伝えします。
校長からの「学校評価でも触れた『読書に課題がある』という結果が出たので、その点についてご意見を伺いたい。」ということを受け、このことについて協議しました。

◆今、小学生でもスマホやアプリ等を通して、YouTube等に触れている機会が多いと聞いています。そのような状況を把握したので、私はYouTubeで読み聞かせを始めました。生の声とは違うので難しい部分もあるのですが、対面でできないこの時代や時代の変化に応じて何ができるのかを考えて、あるものをいかに使うのかを考えて取り組んでいます。

◆算数科でも、計算はできるのですが、文章問題となると解くことができないと聞きます。読書郵便をしていますが、親に送っても返信がないことがあるそうです。親が活字を読んでいることも影響しているのではないのでしょうか。読書の推進は頭を抱える問題となっています。

◆私が子供や孫に勧めたいと思う文学的な本だけでなく、今のお薦めの本は多様性に富んでいます。自分たちの時代と異なることを実感します。ただ、学校の図書室は、予算の関係もあり新しい図書を配架することが困難であると聞きます。本当は、もっと新しい本を入れてあげて環境を整えてあげることが大切なのだと思います。

◆函南町は、「読書を推進している町」ということで、図書館が充実していたり、読み聞かせをたくさんやってくれたりしています。活字に触れる機会は充実しているように思います。

◆自分が本を読むときなどを考えると、心が弱くなっているときに心が強くなれる本を読もうとするなど、自分の気持ちの持ち方で選んでいることがあります。自分の置かれている心のもち方で、自分の欲しい本が手に取れるようになるとよいのではないのでしょうか。

◆優れた文学作品は、情景で登場人物の気持ちが表されています。昔の優れた描写で表現されている作品を読ませたいが、今の生活とかけ離れていて、子供たちはどれだけ理解することができるのでしょうか。読書を推進する難しさの壁となっていますね。

◆自分の経験で考えると、読書好きになる一つとしては、実体験をたくさん積ませることであると考えます。実体験をたくさん積むことで、それをきっかけに読書に目が向けられることがあるかもしれません。しかし、保護者も忙しく、環境も変化してきているので、機会や場が少なくなっていることが現状だと考えます。

◆私自身は読書が大好きです。家でよく読んでいます。しかし、子供たちからは「文字ばかり読んで何が楽しい」と言われることがあります。本好きな子供にしたいと思っていましたが上手くいきません。そんな子供が最近、自転車に興味をもつようになりました。そんな時に自転車関係の本を与えたところ、子供は反応し読書を始めました。子供が興味あるタイミングで図書を与えることの必要性を感じました。

◆私は商売をしています。お客さんがお客さんを紹介してくれることがあります。そのお客さんに「何で我が社にお越しいただいたのですか」と訊ねると、自分がPRしてきたことと違う意見が聞けて参考になったことがあります。そういう視点から考えたとき、本が好きな子供に「なぜ、本が好きになったのですか」と訊ねることも必要ではないのでしょうか。同じ世代の子供たちの考えに大きなヒントが隠れているような気がします。

◆教科書もデジタル化されると聞くが、紙媒体の本も必要だと思います。本と向き合うことで、心と向かい合う読書ができます。何事もバランスが必要なのではないのでしょうか。

◆図書室に行かないと本が読めない、借りられないというのではなく、図書室以外でもいろいろな場所に触れる機会があると良いと思います。



【図書室前の掲示】

第2回「函南小学校支援会議」（コミュニティスクール）では、読書活動の推進の課題について有意義な話し合いが行われました。学校からの説明という一方向的なものではなく、参加いただいた委員の皆様方から、いろいろな視点からご意見をいただくことができ、双方向的な協議が行えましたことたいへん嬉しく思います。

本校の読書活動の推進では、新型コロナウイルス感染症対策下の中、「読み聞かせ」ボランティアの皆様、「図書」ボランティアの皆様方による活動が再開いたしました。この会議でいただきましたご意見を参考にさせていただき、一人でも多くの子供たちが読書に向き合っていくようにしていきたいと考えます。保護者の皆様方、地域の皆様方におかれましては、今後ともご理解、ご協力をお願いします。